

平成26年度 第2回和光市自立支援協議会 会議録案（要録）

- 1 日時 平成26年12月19日（金） 午後3時～午後4時
 2 場所 和光市役所 5階 502会議室
 3 出席者 12名

	所属団体等	氏名
会長	十文字学園女子大学人間福祉学科	佐藤 陽
副会長	和光市心身障害児・者を守る会	深野 正美
委員	社会福祉法人教友会 (和光市中央障害者相談支援事業所)	市村 麻衣子
委員	障害者支援施設すわ緑風園	森田 康彦
委員	すずらん	田畑 康治
委員	特定非営利活動法人 ポコ・ア・ポコ	山本 恵子
委員	埼玉県朝霞保健所	谷戸 典子
委員	埼玉県立和光南特別支援学校	折原 則子
委員	朝霞公共職業安定所	小久保 勉
委員	和光市身体障害者福祉会	下川 初江
委員	和光市社会福祉協議会	野川 希代子
委員	公募による市民	井本 昭
委員	その他市長が必要と認める者	近藤 憲

4 欠席者 6名

	所属団体等	氏名
委員	東武中央病院	高萩 哲
委員	和光市教育支援センター	小寺 恵理子
委員	和光市商工会	本橋 淳男
委員	特定非営利活動法人 耀の会	関 正視
委員	特定非営利活動法人和光虹の会	海老原 利昭
委員	その他市長が必要と認める者	高田 奈歩

（事務局）保健福祉部東内部長

社会福祉課 星野課長 岸本課長補佐 工藤統括主査 野口主査

中田保健士 齊藤主事

福祉政策課 阿部課長 浅井統括主査

5 傍聴者 2名

1 第4期障害福祉計画素案について

事務局説明

資料1 第4期障害福祉計画素案

- ・章構成について
- ・第1章 障害福祉計画の策定にあたって
- ・第2章 チャレンジドを取り巻く現状と課題

【 佐藤会長 】 質問やご意見がありましたらお願いします。

▼発達障害について

【 山本委員 】 第2章チャレンジドの現状に、発達障害の記載がない。

【 事務局 】 発達障害の人数等については、県も把握できていない現状である。和光市では、発達支援を保健センターが実施していることもあり、巡回相談の集計は実施している。和光独自の業務を後で追加するようにしていきたい。

【 山本委員 】 発達障害の方で、精神の手帳を取得している方もいる。それには児童も多く含まれる。現在、市では、子ども子育て計画を策定しているが、そこへの位置付けはあるか。両方の計画の谷間に入らないようにしてほしい。

【 事務局 】 障害福祉計画にも入れて、子ども子育て計画には、育成を含めていきたいと考えている。発達障害や自閉症等を、ケア会議で、臨床心理士に入ってもらい、一人ひとりのケアプランを作るようにする。

▼ADLについて

【 山本委員 】 ニーズ調査分析で使用した ADL 項目は、食事、寝床への移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿だけなのか。コミュニケーションの項目が必要ではないか。

【 事務局 】 今回は ADL と IADL と就労を 3 障害別にクロス分析をした。また、ニーズ調査で 160 以上の項目を調査した。その中には、関係づくりやコミュニケーションの間もあるため、それらもクロスを行う。最終的には、所得や住まいの関係もクロスしていきたい。今回、身体機能と生活機能と就労に対し、3 障害はどのような傾向があるかを分析した。ここから一定の見込量を出す。次はソフト（内容）である。コミュニケーション能力を見て、例えば、就労支援 B のサービスが必要になる等を伝えていきたい。高齢者には、従来からニーズ調査を実施してきたが、障害は今年初めてである。また、給付分析も初めてである。まだまだ発展途上であるが、引き続き、これらを実施し、本人に即した

サービスを考えていきたい。

【 山本委員 】 ニーズ調査の分析は今回の資料が全てか。

【 事務局 】 ニーズ調査のそれぞれの項目としてのまとめは、作成次第報告する。

▼ニーズ調査の就労質問について

【 山本委員 】 この就労は一般就労か。

【 事務局 】 一般就労である。今回は個別記名式で行ったため、すべてアウトリーチすることができる。その際に、就労についても加味していく。今回の計画は、年度ごとに、計画内容のブラッシュアップを行いたい。例えば、500件分のニーズ調査から算出する基盤整備と、第2弾としてアウトリーチをかけた訪問から、判明する足りない部分の基盤整備やサービス内容について見直し案を作成する。その案について、自立支援協議会の計画策定部会でご議論いただきたい。これらを踏まえ、3～5年間で目標に到達できるようにしたい。このような想定をしていないと、障害部分の基盤整備等は非常に難しい。

▼グループホームの基盤整備について

【 井本委員 】 私は練馬区に住んでいたが、障害者を受け入れる学校がなかったため、和光市に転入してきた。当時、私が知っている人の大部分の人が和光市からいなくなっている。支援学校が市内に2つあることから、障害を持っている人が和光に流入している傾向はあるか。和光に永住してもらい、自立した生活を送れることが理想である。

また、計画を作るときには、人口がどのように推移しているか、障害を持っている人が年齢とともに、どのように生活をしているか、これを把握することは大切である。私が一番気にしていることは、親が高齢化したときに必要になるグループホームのことである。市内のグループホームの数の少なさに驚いている。この状況で、先のことを考えることは難しい。和光から出ていく選択をするようになるかもしれない。障害者数は年々増えているので、支える施設は必要である。

【 事務局 】 和光市の地域包括ケアが目指す住まいは、施設ではなく、小規模の住居やグループで過ごす住居等である。グループホームは、1ユニットであるが、見方を変えると、9LDKの家になる。高齢者の分野では、小規模の地域密着型の住居を日常生活圏域に建て、自宅で過ごすことが難しい方は、そちらに移り住んでいただいている。買い物や通学をしていた地域のため、他市町村等への施設入所とは違い、場所や地域を変えることによるダメージを防ぐことができる。障害者についても

考え方は一緒である。地域において、井本委員が言われたように、親亡き後に、グループホームに入居して、そこから就労 A や B、または、自立した一般就労へ向かう。これらを行うことで、親亡き後も、地域の中で自立した生活を支援を受けながら送ることができる。

また、コミュニティケア会議で、障害のある中学生や高校生のケアプランを見ている。これを積み重ねることで、グループホームの将来的に必要な数や方向性が見えてくる。これらを踏まえ、小学校、中学校のときに、5年後や10年後のケアプランの将来目標を親や本人にご理解いただき、そこに導いていくことが事業計画である。

また、人口の流入流出については、広域調整が必要になる。それは近隣自治体同士の整合を図りながら、進めていきたい。小規模多機能も含め、在宅にしながら、サービスを取り入れていくことを目指したい。

- 【 佐藤会長 】 計画の第 5、6 章に記載される事項になる。5 章には地域生活支援拠点等の整備の目標がある。国や県が具体的な内容を示していないが、今の議論も参考にして、和光市なりの方向性を示してほしい。

▼サービス単位数を計画に使用したことについて

- 【 山本委員 】 第 2 章の現状分析の部分で、初めて単位数が導入された。これによりサービス量が明確に出ているが、桁の大きさに馴染まない人もいないのではないか。人数等でもよいのではないか。

- 【 事務局 】 サービス単位が 0 のものが多いが、基盤整備の視点からすると将来を予測しにくい。それぞれのサービスごとの 1 人あたりの単位数を出して、見やすくしたい。今まで給付分析について障害分野ではしてこなかったもので、今回初めて白書のようなかたちで少し数字を出せたものとなった。

▼障害者の家族や、計画の今後の展開について

- 【 市村委員 】 サービス量の分析はされているが、家族構成やサービスを利用していない障害者の方がどのように生活しているかについてどのように把握されるのか。今後どのように進めていくのか。

- 【 事務局 】 世帯構成等については、ニーズ調査の関係で把握している。また、今回はブラッシュアップ型の計画を策定していきたい。計画に基づき、国の補助金等を活用しながら予算化を図る。ブラッシュアップした計画と予算を整合し、基盤整備やサービス提供を行う。基盤整備等の優先度を示し、それに承認いただき、進めていきたい。

▼サービス資源について

- 【 深野副会長 】過去の計画において、エリアごとのサービス事業所を示すことはなかった。当時は必死に1つずつ探した。これがあると、計画を見た方が自分たちにとって役に立つものという認識になるので、とてもありがたい。
- 【 事務局 】情報公表については、自立支援協議会はもちろん、ホームページ等を活用し、事業所の特性等を分かりやすく情報発信していきたい。
- 【 佐藤会長 】章構成、第1～2章については、この素案で進める承認をいただいてよいか
- 【 一同 】異議なし。
- 【 事務局 】2章のニーズ調査結果や審査区分データ分析に基づいて、3章以降を作成している。次回の計画策定部会まで、サービス量や地域生活支援事業等の数字については、会長と事務局にご1任いただきたい。
- 【 佐藤会長 】3章以降の必要量等の数字を作るにあたり、次回の自立支援協議会及び計画策定部会まで、事務局と私に一任いただいてもよろしいか。
- 【 一同 】異議なし。

2 その他について

事務局次回会議日程を連絡